

新型コロナウイルス禍に関する支援措置及び要望 に関するヒアリング調査結果

2021年10月

一般社団法人中部航空宇宙産業技術センター

【調査概要】

*調査期間

令和3年7月下旬 ~ 8月下旬

*調査方法

訪問面談

C-ASTEC会員企業を主とした
(行政・金融機関・支援機関等を除く)

*回答数

20社

*回答企業内訳

・中小企業	18社
・所在地	愛知県 11社
	岐阜県 7社
	三重県 1社
	その他 1社

問1 現在の経営状況と今後の見通し

- ほとんどの企業で航空機分野の売上はピーク(2017-2018)の7割減であり、この状況が当面続くと見ている。このため、航空機の割合が高い企業ほど厳しい状況。
- 航空宇宙分野では防需、エンジン、ロケット関係が堅調。
- 新事業として、需要が好調な半導体分野等での受注に積極的に取り組む企業が多い

【主な声】

- 航空機はピーク時の7割減で、回復は当面見込めず、今期は、さらに落ち込む見込。防需は、堅調で若干増加傾向。4月の決算では雇調金等があったので若干の赤字にとどまり、償却費の分を含めるとキャッシュフローはプラスにとどまった。
- 航空機・宇宙分野の売上はピーク(2017-2018)の6~7割の水準。今年度については、緊急融資により運転資金は借りられたので何とかかなると思うが、飛行機の生産がこのままだときつい。航空機製造の拡大に併せて設備投資を積極的にやってきたので、償却費が経営に大きな負担。
- 航空宇宙分野(売上の4割)の売上は、ピークの7割減。このため昨年、全社売上はピーク時の半分まで落ち込んだが今年はさらに悪い状態。
- 航空宇宙分野の売上は、ピークの7割減。2期連続の赤字となったが、半導体、ロボット分野、ロケットの売上増により今期は回復予定。
- 航空機分野は、ピーク時(3年前)の約7割減(B777 8.3機/月→2機/月、B787 14機/月→5機/月)。防需は堅調だが量は少ないため民需に依存しているため厳しい状況。設備稼働率は60%。
- 航空分野は7割減であるが、宇宙は堅調であるため、航空宇宙分野としては6割減。会社全体では、自動車や一般産業向けもあり、今期は、何とか黒字とした。
- 航空機分野への派遣はゼロとなった。自動車関係に振替、現在の売上は、ピーク時の7割に戻し、何とか黒字とした航空機関係の回復には最低でも1.5~2年はかかると見ている。
- 航空宇宙分野の売上はピーク時の7割減程度。民間航空機組立にコロナ禍前は20名派遣していたが、今は5名程度。民需については、しばらくは無理だと思う。

問 2 雇用環境について

- 航空機分野の割合が高い企業では、依然として休業や自動車産業等への出向を行っている。
- 航空機事業の比率が相対的に小さい企業や半導体等の新分野展開が順調な企業では、社内配転により雇用を維持している。

【主な声】

- コロナ禍前は、月～木は2時間残業し、土曜日も月に1～2日操業していたが、コロナ禍で残業はなくし、金曜日を休業とし、これを現在も続けている。
- 一時は夜勤の休止、週2日の休業をしていたが、派遣事業の開始や半導体等の受注により通常勤務に近づいてきたがまだ一部、雇用調整助成金を使用。
- 雇用調整助成金を使った休業は、部門を限定しているが週1日休を現在も使っている。少なくとも航空機の生産がある程度回復するまで延長を望む。
- ピーク時には、1100名航空機関連の従業員(請負、派遣も自社社員)は、自主退職が500名、残りのうち250名は、自動車関連企業や電機関連産業に派遣、出。自社工場でもピークは300人体制だったが、現在は50名。休業も雇調金を使って一時は100名であったが、現在は10名。
- 一時は休業したが、今は半導体等の仕事があるのでやめた。
- 希望退職者の募集、自己都合退職、嘱託雇用者の契約見直しで20名ほど減らした。合わせて、去年は週1日の休業をし、徐々に休業日数を減らし本年7月で終了。
- 自動車、電機産業へ派遣。また、社内の他部門等へ20名程異動。
- 航空機分野の余剰人員については、社内での事業間配転で凌いだ。
- 従業員(社員、派遣社員、協力会社)の約半数を自動車関連企業に派遣。
- コロナ禍直後は平均して各社週2日の休業をしていたが、今は週1日。残業も平均月40時間/人やっていたが、航空機関係の部門はゼロ。派遣社員は、組合全体で100人程度切った。出向は県内の自動車や産業機械の企業に組合全体で40人程度。出向は、航空機産業は防需に波があり、出向者を急に戻せないのが最小限に留めている。また、航空機製造には、段取りや検査等の間接的な部門の人員が4割を占めており、ここも出向が困難。

問3 将来を見据えた取り組みについて

- 引き続き航空機分野を中心に事業を展開するものの、経営の安定化のため新分野展開を模索する企業が多い。
- その分野としては、加工技術が生かせる半導体、医療分野が多い。
- また、海外の航空機関連メーカーとの取引拡大に活路を見出そうとする取り組みも多い。

【主な声】

- 防需では大手メーカーの中核パートナーとされており、今後も、この立ち位置を維持するため、加工技術の高度化のための取り組みを継続。
- B787は将来的にもかつてほどの生産にはならないとみており固定費の削減等のダウンサイジングを実施。また防需の取り込みや部品の海外調達を検討。
- 今後、航空機生産が回復したら是非またやりたい。エンジン関係はオーバーホールもあり、航空機そのものより需要が安定しているので、この分野を強化。
- 航空機分野はダウンサイズする方向。もちろん仕事がでてくれば対応するが、従業員が大きく辞めた状況では、以前のようにするのは難しい。システム製品事業などの航空機以外の分野を伸ばし、航空機依存度を下げる。
- 需要の振れが大きい航空機産業では経営の安定が難しいので、新規事業への取組みも重要と思っている。
- 医療分野等の新事業開発にも社内に複数のプロジェクトチームを構成して現在取り組んでいる。
- 強みである難削材加工技術が応用できる半導体や有機EL分野等を開発したい。
- 医療器具分野の進出のため大学の先生のニーズに基づき、試作品を作成。
- 半導体分野やエンジン分野にも注力
- 自動車関連の事業の比率を高める。現在、取引しているルートを太くする。
- 仕事はいずれ戻るが以前と同じ仕事の仕方ではなくなる。DX、3Dキャド、3Dプリンター等への対応が必要。
- 今後も航空機分野を主として事業を行っていく。このため、海外の航空機メーカーからの仕事も積極的に取り込んでいきたい。
- 国内航空機メーカーだけでなく、将来的にはエアバスやロールスロイス等と直接取引できるようにしたい。
- エアロマート名古屋、モノづくり展に出展し、事業の新たな展開を模索。
- エアモビリティ関係も含め、他の航空宇宙関係の企業との取引を増加したい。

問4 支援施策の活用状況と要望について①

□雇用調整助成金

ほとんどの企業でこれまでに活用しておりその評価は高く、制度の継続を求める声が少なくない。延長期間は航空生産の不透明性もあり来年度以降も要望する声が少なくない。

【主な声】

- 雇調金は、比較的簡単な手続きで使えて良かった。
- 雇調金は、今も一部使っている。今後も継続して使えるようにしてほしい。
- 雇用調整助成金は、延長してほしい。航空機の生産動向からすると今年度一杯では足りない。
- 雇用調整助成金は、航空機生産の回復が見通せないため、少なくとも2年程度は延長してほしい。
- 雇用調整助成金の特例措置は大変助かっており延長してほしい。延長については航空機産業の現状を踏まえると来年度一杯はお願いしたい。また、延長決定を少なくとも生産計画に反映するために3か月前には発表してほしい。

□雇用安定助成金

ヒアリングした企業での使用はなかった。その理由として、そもそも必要がないとする企業が多かったが、手続きが煩雑である、航空機専門の派遣業態でも派遣業として対象とならない、出向先への負担を気にして使わないとする声があった

【主な声】

- 産業雇用安定助成金は、事前申請制度だけで事後の申請を認めるとともに、出向先の関係書類も出向元で用意する必要があるなど手間が係るのに助成金額が少ない。このため使用を断念したので、簡素化を望む。
- 人材マッチング事業や産業雇用安定助成金は、派遣業は対象とならないとされているが、当社のような特定の業種の顧客に特化した派遣業態のところは、対象としてもらいたい。
- 産業雇用安定助成金は、市や銀行は受入先を紹介してくれてありがたいが、もっとマッチングの部分にも支援がある制度にしてほしい。

問4 支援施策の活用状況と要望について②

□緊急融資

ほとんどの企業が活用していた。概ね評価は高いが無利子融資枠の拡大や繰延期間の延長を望む声もあった

【主な声】

- 緊急融資の無利子枠は目一杯活用した。比較的簡単に手続きで使えて良かった。すぐ借りられ良かった。
- 緊急融資について、もっと無利子融資枠を増やしてほしい。
- 緊急融資について、返済猶予期間が5年ありがたいが、航空産業については、この現況からみてもう少し長くしてほしい。
- 緊急融資枠も、基本無借金経営をしているため、利用していない。

□設備投資に係る補助金

ほとんどの企業で活用した、または活用しようとしている。航空分野の設備導入においては、ものづくり補助金だけでなく事業再構築補助金でも限度額小さいとする声があった。また、申請にあたって、書類作成の支援を求める声もあった。

【主な声】

- もの補助は、限度額が小さ過ぎる。
- 事業再構築補助金やもの補助では、一部の設備しか導入できないので、サプライチェーン補助金のような設備ラインを更新できる大型の補助金について、対象分野を拡げた継続が必要。
- 中小企業にとって補助金等の申請は非常に難しいので、作成支援をお願いしたい。
- 事業再構築補助金は、申請を考えているが、申請書は自社で書けないくらい複雑なので簡素化を望む。また、こうした大型の補助金の継続を望む。もの補助は以前使ったが、金額が小さく、補助率も低いので改善して欲しい。サポインも以前使ったが、申請書が複雑で中小企業では難しいので簡素化を望む。
- 研究開発への支援について、もっと使いやすい制度が望まれる。かつてサポインを使ったが、手続きが煩雑で使いづらい。

問4 支援施策の活用状況と要望について③

□展示会・商談会

海外メーカーとの商談、取引拡大のために今後も支援を求める声が多い。

【主な声】

- 海外企業との連携のためにも海外の展示会へ出展支援を望む。
- 海外への出展は、取引の拡大だけでなく、新しい事業のヒントを得る機会にもなるので、出展支援やそうした機会の創出を支援して欲しい。
- 海外メーカーとの商談のための展示会の開催を今後も希望。
- 展示会、商談会は、新しい取引先を見つけるために重要であり、国、県でこうした事業への出展等への支援を今後も継続してやって欲しい。

□国産機開発

日本の航空機産業の発展のためには不可欠であり、国が主導して、次期戦闘機だけでなく、MSJの開発再開をすべきとする声が少ない。また、防需の国内調達拡大を望む声もあった。

【主な声】

- 日本の航空機産業が外国の下請けの状況では、航空産業の発展は困難であり、民間機の国産化が必要であり、そのためには国の支援が必要。
- 日本の航空産業の振興のためには、三菱重工、川崎重工、SUBARUなども支援すべき。また、航空機の国産ブランドが必要であり、MSJの開発再開が重要。
- 設計から製造までの一貫した技術確保のために民間機の開発は重要であり、スペースジェットの開発再開を望む。
- 新製造技術の導入促進のためには、国産民間機の製造が重要であり、スペースジェットの開発再開のために国の支援を求める。
- 日本で今後も民間航空機開発を行っていくのであれば、まずはMSJの開発再開、事業化をしないとYS11の失敗で民間航空機開発は40年間ストップしていたが、次はないと思う。このために国がしっかり支援すべき。
- 航空機産業の需要がこんなに落ち込み違う業界への出向や休業が続くと、現場の元気がなくなり、離職する者もある。今後、こうならないようMSJなどの国産機の開発を国が主導して行うべき。また防需については、海外調達が多すぎる。国内調達を増やして欲しい。
- 防需でも米国から多くを調達しているが、航空関連産業の発展のためには国産調達を増やすことが必要。

問4 支援施策の活用状況と要望について④

□その他の要望

航空機分野に必要な人材の確保のために若年層に対する教育や固定資産の減免期間の延長を望む声があった。

【主な声】

- 航空宇宙産業での人材確保のため、小中学生から関心を持たせるような取組みをして欲しい。
- 航空産業は手作業の多く工員を確保するためには、専門学校だけでなく高校でも航空学科を設け、製造、整備、飛行などの観点で人材を継続的に育成することが重要。
- 航空機産業に継続的に人材が入ってくるようにするために、若年層が航空産業に興味を持たせるような教育カリキュラムが必要。
- 固定資産税の減免措置は、最長3年であるが、航空機産業のような設備投資の大きい業種については、延長してもらいたい。
- 製造業を行うにあたって、航空機の認証だけでなく、セキュリティ認証、環境認証等維持が必要なものが多く費用は少なくないので補助金等があればありがたい。
- 岐阜県においては、航空機・同付属品産業が特定業種とされており、その単価が著しく高いので、是正してほしい。(岐阜県最低賃金852円→航空機関係971円 愛知県輸送機械器具製造業 957円)。

問5 C-ASTECへの期待

□C-ASTECへの期待の多くは、セミナー、講演会等による情報提供であり、水素やエアモビリティ、宇宙関連等航空宇宙分野の先端分野の取り組みや医療、半導体、環境など異分野成長産業に関する要望が多い。また人材育成のための研修や展示会への出展支援を求める声もあった。

【主な声】

(情報提供)

- 航空分野の発展方向としての水素、e-VTOL、輸送用ドローン、空飛ぶ車等のロードマップ、開発情報を提供して欲しい。
- 宇宙・ロケット分野への中小企業の参入に係る情報やAXAの電動飛行機開発の動向が知りたい。
- 防衛省の調達動向
- 他分野展開に関する情報が欲しい。
- 医療機器、半導体、リニア、ドローン、空飛ぶ車等の将来の成長分野の情報が欲しい

(その他)

- 今後も展示会への出展支援を期待する。
- 航空分野全体の活性化の取り組みを希望。
- セミナー等の共同実施
- 人材育成のコース(アルミのリベット作業等)は評価しており、今後も続けて欲しい。